

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	はぐくみの家 第1 ココ		
○保護者評価実施期間	R7年 8月 25日 ～ R7年 9月 12日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	R7年 8月 25日 ～ R7年 9月 12日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 9月 22日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	併行利用や移行に向けた支援を行なっている。	・園送迎や定期的に情報共有を行う等、併行先や移行先との連携を積極的に行っている。 ・併行先の幼稚園等との交流会を定期的に実施し、対象児の情報共有を担当の職員同士で共有するように努めている。	合同で研修会を行い、それぞれの役割を理解する機会を作る等の相互理解を深めていきたいと併行先の園と現在相談している。
2	活動プログラムを固定化せず、提供している。	活動を数名の職員で担当割をしており、それぞれの特技を生かした活動を提供している。	活動内容の充実化をはかる必要があるため、外部の研修会に積極的に参加していく。
3	地域の保健、医療、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行うように努めている。	地区の保健師と連携をはかり、母子のサポートにあたっている。また、外国人へのサポートとして、必要なときに通訳を入れる等の支援を行っている。	近隣の事業所との連携をはかりたいと考えている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の職員の配置数は体制上適切だが、非常勤職員は、活動プログラムの計画を立てたり、振り返りを常勤職員と共に行うことが難しい。	非常勤職員は子どもが利用している時間にはいるが、子どもがいない時間や延長支援を行なっている時間帯には配置されていないため、時間を作ることが困難である。	現在は、子どもが少ない時間帯や日中の空き時間や土曜日勤務の際に行なっているが、今後、他事業所の状況の情報も収集しつつ、工夫をしていく。
2	清潔を心がけているが、施設が清潔で、心地よく過ごせる環境というわけではない。	施設の老朽化もあるため、難しい。	安全に配慮しつつ、修繕できる箇所は行っていく。
3	近隣の児童発達支援センターと連携をはかっている。	児童発達支援事業所間の連絡会はあるが、ZOOMのため意見交換がしづらい。また、近隣の事業所と話せるわけではないので、当事業所の抱えている地域的な課題を共有することができない。	センターが中心となり、近隣の事業所の意見をまとめてもらいたいと考えている。